

近年の養殖マガキの成長に影響を及ぼす環境要因の検討

2015年から開始したカキのモニタリング調査で見たこと

【背景・目的】

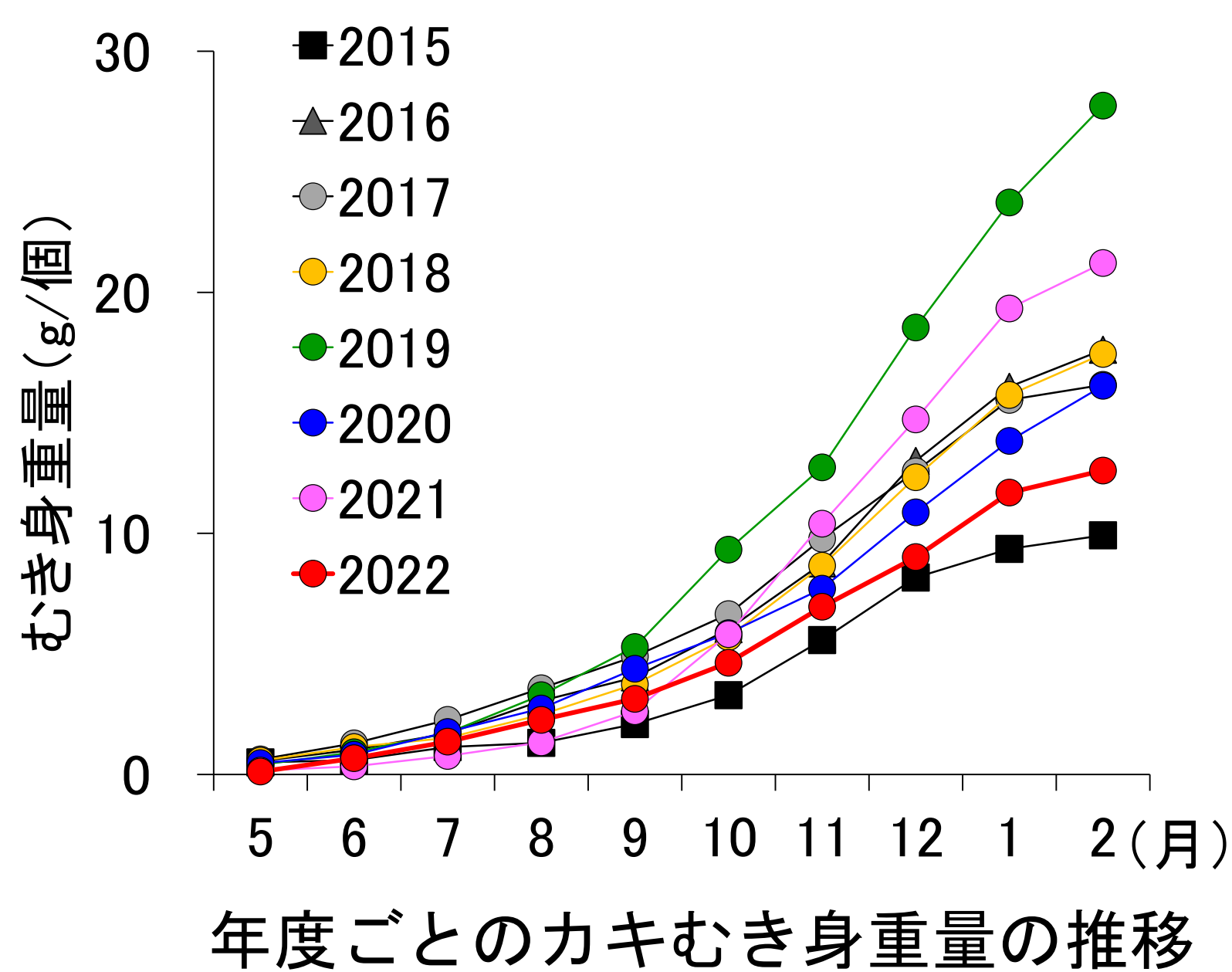
岡山県のカキ養殖では成長不良による生産不調が散発的に発生し、その原因究明が求められています。養殖マガキの成長に影響を及ぼす環境要因について検討するとともに、成長が良好であった2021年度と成長が遅れた2022年度の環境条件を比較し、着目すべき要因について検討しました。

【成果の内容】

①近年の状況 岡山の「一年かき」の生産：春季に稚貝を筏に垂下し、その年の冬季に出荷

(従来) 夏季の産卵によるへい死を防ぐため、夏季までは成長を抑制

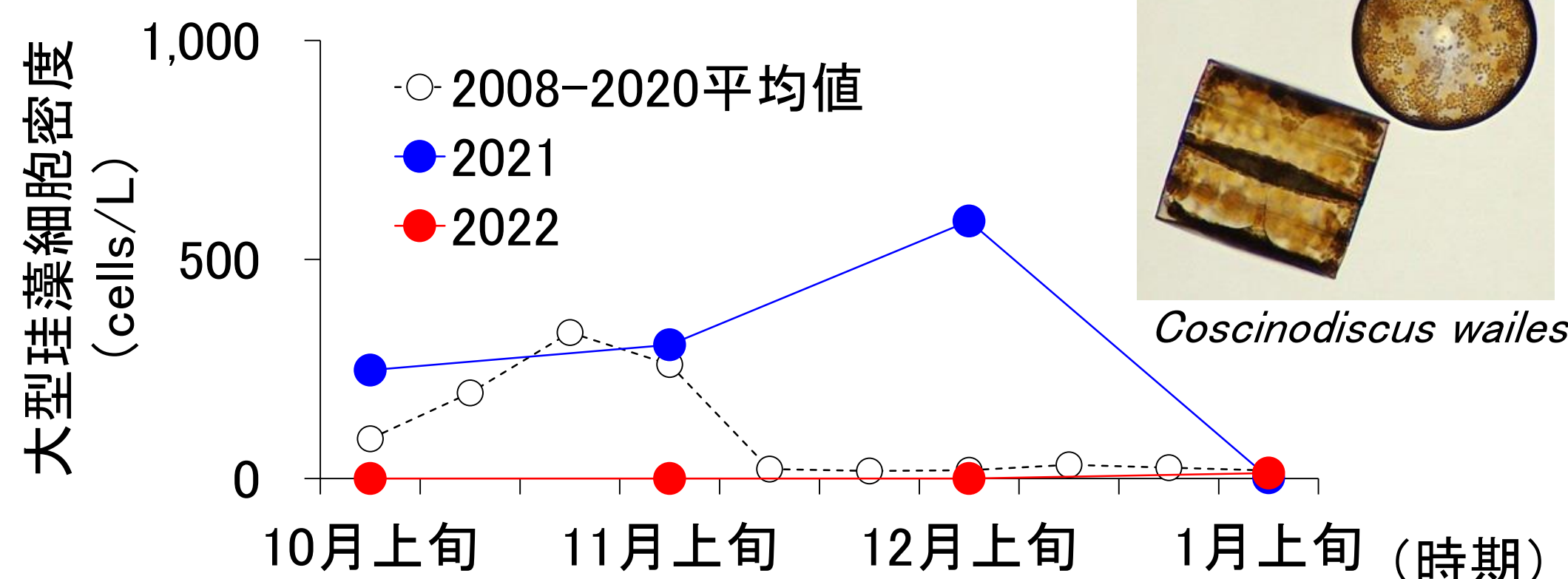
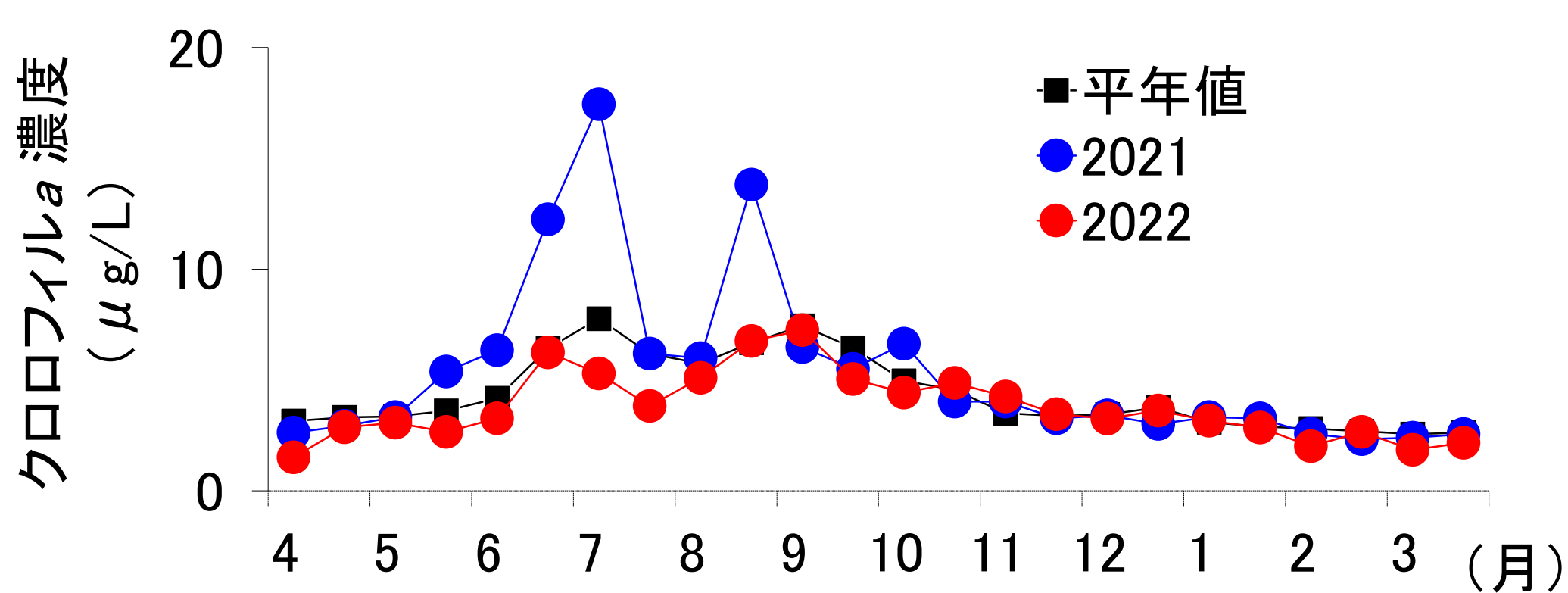
(近年) 20~30年前と比べて一年かきのへい死の事例が少ない
夏季までの成長が悪いと、生産不調が生じる傾向あり



近年の海では、夏季の抑制期における成長を注視する必要あり

②2021年度(成長良好)と2022年度(成長の遅れ)の比較

両年の環境条件を比較したところ、夏季および秋季の餌料環境(植物プランクトンの発生状況)に違いが見られました。成長が遅れた年度では、春から夏にかけて植物プランクトンの量が少なく、秋に大型珪藻がほとんど発生しませんでした。



夏季から秋季の餌料環境について、複数の手法(水質分析、検鏡等)で注視する必要あり

マガキの成長は一般的に水温の影響も受けると言われていますが、今のところ明らかな関係性は見られていません。引き続き、夏季および秋季の餌料環境や水温との関係を注視しながら、近年の漁場環境に適した養殖方法についても検討していきます。